

## 同窓会―現在、過去、これから―

幹事長 森 昭彦

毎年「藤棚」にて同窓会の現状について報告させて頂いております。今春の卒業生を含め、記録が残っている明治二十三年（一八九〇年）以来の卒業生の数は一五、一〇三名（明治時代小学校一、三一九名、大正二年以降小学校一二、四八四名、高等小学校（全期）一、三〇〇名）です。そのうち生存会員（本年六月二十七日現在、高等小学校は除く）は九、八二六名、内住所が判明している会員は七、〇八七名で、約72%の会員のご住所を把握しております。

附属小学校の同窓会は第二次大戦前にもあったよう  
で、昭和十一年に同窓会名簿の整理編纂が行われていますが、どの様な活動が行われていたかははっきり分かりません。戦後、昭和三十三年頃から同窓会の再建が始まり、昭和三十七年四月に会報第一号（まだ「藤棚」の名がついていなかった）を発行、五月二十日に第一回の同窓会総会が小学校において開催、同年十一月には名簿が発行されています。

この時の総会参加者は、新卒の中学一年生を初めとして若い人たちも沢山集まり、明治年代の卒業生二十名以上を含めて一〇〇〇名を超えたと記録されています。体育館での総会（児童館はまだ無かった）の後、寿司やサンドイッチの模擬店もあり、藤棚の下や教室で、それぞれのクラス会・懇親会などが開かれました。中高生達は校庭でフオークダンスや球技を楽しみ、小学校全体を会場とする集まりでした。

現在、同窓生の集いとしては三年に一度の懇親会が行われていますが、七十人程度の参加に止まっています。再建当初のような同窓生の熱気にあふれた集まりをどの様に取り戻せるか、二年後に小学校は一四〇周年を迎えることも含めて考えていきたいと思っています。

同窓会を活発に動かすには、アイデアと行動力豊富な常任幹事さんが必要です。常任幹事は各学年の幹事から互選で選ばれますが、幹事長が指名で選ぶこともできますので、我こそはと思う方は、ぜひ立候補してください。

世田谷区深沢 4-10-1  
東京学芸大附属世田谷小学校内  
青山附属同窓会  
<http://www.u-gakugei.ac.jp/doso/>  
青山附属同窓会 検索

発行人 森 昭彦  
編集人 斉藤研一

### 青山会(P T A)理事会より、 千倉・青山荘に関する重要なお知らせ

拝啓 初夏の候、ご卒業生の皆様におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この場をお借りして、青山会理事会より「青山荘」に関する重要なお知らせをさせていただきます。

今の青山荘は昭和49年竣工され、早40年を迎えます。これまで、ご卒業生の皆様はじめ、沢山の方々に愛され、利用されて参りました。

このように歴史ある青山荘ですが、近年二つの点でその存在意義が問われています。

- ・利用者数の減少が著しい
- ・青山荘の維持費が重しとなっている

最初に利用者数の減少ですが、特に東日本大震災以降は、海が至近距離にあることから今後予測されている大地震に伴う津波リスクが利用者減少の一因となっております。一般利用が減少していることに加えて、青山荘での移動教室や臨海学校等の学校イベントが3

年連続中止になっており、今後も青山荘でのイベント再開の目処は立っておりません。

次に青山荘の維持費ですが、青山会では毎年在校生から徴収する会費で青山荘を維持しております。維持費には、管理人手当、固定資産税、地代、施設諸費ほか、修繕積立金がありますが、年会費のうち、およそ3割に当たる800万円(昨年実績)を青山荘の維持費として支出しております。利用収入は年度にもよりますが100万円程度となりますので、大幅な赤字として青山会にとっての負担になっております。

青山荘での学校イベントや共同生活は子供達にとってかけがえのないものでありました。そのため赤字経営であってもその存在意義は十分ありましたが、近年は存在意義が薄れてきております。

青山会理事会では、青山荘について今年度中に重要な決定を致します。

決定に先立ちまして、ご卒業生、在校生父兄の皆様からご意見を伺う予定にしております。ご理解とご協力の程、お願い申し上げます。

2013年7月 青山会理事会



【先生方の異動】

☆お送りした先生

▽大櫃重剛先生

東京都との五年間の交流期間を終え、都の公立小学校に戻られました。

愛称「びつちゃん」。おおらかで気さくな人柄は子どもたちから、そして教員仲間からもとても愛されました。専門は図画工作です。造形室を訪れると子どもと先生がいつも楽しそうに授業をしている様子が見られ、とても印象に残っています。子どもの発想を何よりも大切に先生方の考えが、楽しい授業に結びついていたのでしよう。学校では研究部に属し、本校学校研究の推進役として力を発揮してくださいました。

食べることが好きで、ラーメン、焼き肉等々食に関して一言お持ちでした。また、一方では体を動かすことも好きで、いろいろなスポーツを楽しみました。教員サッカー

チームでは守備陣の要として大活躍でした。今後のますますのご活躍をお祈り致します。

▽五十嵐敏文先生

五年前の着任の挨拶で「私の名前は五十嵐と書いてイカラシと読みます」と紹介され、なぜかそれが強烈な印象を学校全体に与えたことが思い出されます。その五十嵐先生が東京都との人事交流期間を終え都に戻られました。

理科教育がご専門でした。物理畑ということが影響しているのか、とても緻密な指導をなさる先生で、教材選択からその開発までじっくりと時間をかけて取り組まれ、その姿勢は他の教員の参考に少なからずなりました。また、子どもの意見に耳を傾け、常にその真意を探りながら授業を展開する。子どもを大切にする先生ならではの授業でした。生活実践部に所属し、子どもの学校生活全体に目配りを

しながら委員会活動などの指導に当たられました。新天地での活躍をお祈りしております。

▽高須みどり先生

本校には二年間勤務され、この度、兄弟校の東京学芸大学附属竹早小学校に赴任なさいました。

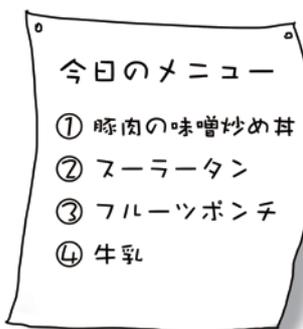
国語教育が専門で、子どもたちの興味関心を高めるための教材開発や指導法の改善に熱心に取り組まれました。どのような課題にも積極的に挑戦し、自分の力にしようとする努力家でした。子どもたちとは常に真剣勝負。運動会練習での熱い指導は今でも伝説です。きつと竹早小でも子どもといっしょに汗を流していることでしょう。今後のご活躍をお祈りいたします。



今日の給食は、な～に？

今の子どもたちは、どんな給食を食べているんだろう？ 2年3組の給食の時間に、突撃取材させていただきました。

子どもたちは、全員が頭に三角巾を付け、エプロンをして、自分たちで配膳。御代りをする子どもも多く、とくにフルーツポンチは大人気でした。



担任の先生のご好意で、私も一緒に給食をいただくことに。私（昭和54年卒）の在学中は、鯨肉の唐揚げやソフト麺が人気だったなあ、牛乳は三角パックだったよなあ…などと昔を思い出しながら、約40年ぶりに附小の給食をおいしくご馳走になりました。（斉藤）

▽原麻美子先生  
理科専科として主に中学年の理科学習を指導して下さいました。「自然現象をじっくり見ることを」とも大切にしていること、そこから生まれた気付きを原動力とした学習を構築することを大切にされていました。徹底した教材の吟味と準備。楽しい実験。子どものノート

への対応等理科学習の基本をしっかりと押さえた実践は、学習者には非常にわかりやすい内容でした。  
ご本人は都市の環境問題を研究対象としてきました。その中で培った科学への興味を、学習を通じて子どもたちに伝えて下さったこと感謝です。新しいステージでの活躍を祈念しています。



# タムラヤさん、 ごんごちは。

学校の正門前にあるタムラヤさん。小学校が、青山から下馬へ、そして深沢へと移転するたびに、学校と一緒に移ってきた文房具屋さん。附属小学校の生徒であれば、必ず足を運んだことのあるお店です。そんなタムラヤさんの五島良雄さんに、今回、お話を伺ってききました。(六月二十七日、附属小学校内の同窓会室にて)

## ◇えっ、タムラヤさんって、 田村さんじゃないの？

五島さんです。田村さんは、青山時代のお店のご主人のお名前。お話を伺った良雄さんのお父様が、そこで丁稚奉公をして働いていらつしやうたそうです。青山から浅草や馬喰町あたりまで、リヤカーを引いて商品を仕入れに行っていたとのこと。

青山師範が下馬に移転するにあたり、大学から下馬にも出店してほしいという要望があり、そこで五島さんが、暖簾分けのようなかたちで、いわば「田村屋」下馬支店を任されたというわけです。なので、下馬時代のお店の名前は、「田村屋五島文具店」だったそうです。

お店の場所が学校の高い塀の前だったため、師範学校の学生とは、塀越しに虫取り網でタバコとお金の受け渡しをしていたこともあったとか。

## ◇文房具屋は、貧乏具屋？

昭和三十年に小学校が深沢に移転すると、再び大学からの要望で、タムラヤさんも現在の場所へ出店。当初は、下馬から深沢へ通っておられたそうです。当時、周囲は畑と雑木林ばかりで何もなく、当然のことながら商売(経営)は大変だったとのこと。

今は今で、いろいろなお店で文房具が売られている時代。街の文房具屋さんがどんどん無くなっていく現状を、とても残念がっておられ、「文房具

屋は、貧乏具屋だって言ってる、嘆いているんですよ」とおっしゃっていました。

## ◇タムラヤさんでは、売っていないの？

教材屋さんから直接学校に納品されるような文房具は、一般の文房具店では取り扱っていない商品なのだそう。だから、例えば教材の二十四色の色鉛筆のうち、早く使い切った一色(一本)だけ後から買い足そうとタムラヤさんに買いに行っても、お店では売っていないわけです。その辺りの事情を、買いに来た保護者に理解していただくのにご苦労もあつたようです。

## ◇タムラヤさん、ごめんさい。

最近の店内は、落ち着いた雰囲気なのだそう。と言うのも、①店内には、買い物をする児童だけが入る。②買い物をするのは、朝の登校前だけ。③下校時に買い物する場合は、先生の許可をもらう。というルールができたからだという。

以前は、買い物をする子どもだけでなく、それにくっついて買い物をしていない子ども達までもが大勢で入ってくるの



で、店内は大混雑。そうすると、悪気はないのですが、ついイタズラ心で商品を持って行ってしまふ子どももいたそうです。そこで学校に相談したところ、このようなルールができたとのこと。

そのような子どもを見つけると、周囲に子ども達も

いないところで(周りの子どもに気付かれないように)、やんわりと注意して返してもらうなど、とてもお気遣いなさつたそうです。ちなみに今は、自動販売機へのイタズラが多いとのこと。

この場をお借りしてお詫びします。タムラヤさん、ご迷惑

## 下馬校舎周辺の今昔

昭和十五年卒 北園英二

母校が青山からこの世田谷の下馬に移転したのは、一九三六年である。私は一九三七年に地元の公立学校から四年生に編入した、いわゆる男二組である。青山で入学した男一組と女子組と新しい同期生になる。なぜ四年生から一組の学級の増設があったのかは、当時の悪戯ざかりの少年であった私達には知る由も無い。恐らく小学校一年からの教育と四年生からの教育との差を測定する意図があったのかもしれない。子供のころであるからすぐに順応し、楽しい小学校生活を送る。

移転当時のこの下馬の地は、田圃と畑と原っぱに囲まれた何もない村落で、東横線碑文谷駅から、玉川電車三軒茶屋駅からも、歩いて二十五分以上かかる辺鄙な場所であった。ランドセルを背に白い大きい丸い襟のベルトの付いた独特の制服の子供達が、碑文谷の駅を降り、踏切を渡り、これも未だ工事中の駒沢通りを渡って学校に向う。畑の中の道は小川に沿って、タンポポが咲き、オタマジャクシが泳いでいた。帰り道などは文字通り、道草を食いながら駅に向ったものである。

この駅名も青山師範と変わる。駅の所在地は目黒区で、学校は隣の世田谷区にあるという矛盾した名の駅である。この駅ほど名前の変化した駅も珍しい。一九四九年頃には第一師範、さらに学芸大学と変わっていく。学芸大学が小金井に移転した後でも、未だに学芸大学の名が残り、周辺は現在も住宅地の中の繁華街として栄えている。

この下馬校舎の周辺は、馬に関する地名が多いのも面白い。下馬、上馬、駒場、駒繫、駒沢と並んでいる。これはこの地が江戸時代から軍馬の供給地であったことによる。明治時代には、日本陸軍の演習

場として使われる。駒沢の練兵場とか、駒沢の輜重兵連隊等がおかれていた。練兵場とか輜重兵と言っても既に死語となり、理解する人も少なくなかった。

さて、この母校の昭和十年代の鉄筋コンクリートの校舎は、二〇一二年秋に取り壊されて姿を消した。附属小学校が世田谷の深沢に移転した後、放送大学がこの校舎を利用していたが、このほどその役目を終え解体された。解体中に校舎を訪れ業者に聞いたことであるが、堅牢な作りで工事は難航したという。

解体の一年前、同窓会の行事としてこの校舎の見学会があり、私も参加したが、校舎も校庭も体育館も、当時の少年時代の記憶よりごちゃまじりしたものであった。当時の少年の身長に合わせた階段の一段の低さに驚いた。本校（師範学校を当時の私達はこう呼んでいた）の校舎の周囲の公孫樹の樹が、三階を越すほどに生育し、式典に使った講堂も樹木の中に埋もれていた。この講堂で紀元二千六百年の式典が行われたことを思い出す。

七十年前にタイムスリップ

をお掛けして、ごめんなさい！

### ◇こだわりのランドセル

現在、タムラヤさんが学校の指定で主に扱っているのは、ランドセルと、体操着関係と、上履きなどの靴だそうです。とくにランドセルについては一括して扱っており、ほかでは購入できないとのこと。

今のランドセルのデザインは、(たぶん)三代目だそうで、バスに乗って通学する子どもがほとんどの附属の子ども達にあわせて、車内でランドセルが邪魔にならないように(多少つぶれるように)、柔らかに作られているのだそうです。

### ◇嬉しいこと

卒業生が、「おじさん、僕のことわかる？」「〇〇年に卒業した者です」と言ってお店を訪ねてきてくれるのが、やはり一番嬉しいそうです。

同窓生の皆さん、今度、学校の前を通ったときには、ちよつとタムラヤさんにも立ち寄ってみませんか！

(文責・斉藤研一)

そして一番の特徴が、ランドセルのふたの留め方。最近のランドセルは、マグネットと金具でガチャッと留めるタイプが一般的なのに対し、附属の子ども達は、ベルトで留めるものを伝統的に使用しているとのこと。子ども達に少しでも手先を使ってもらいたいという願いも込められているそうです。

体操着や上履きについても、デザインや素材など、学校とよく相談しながら使いやすい丈夫な商品を扱っているそうです。

卒業生が、「おじさん、僕のことわかる？」「〇〇年に卒業した者です」と言ってお店を訪ねてきてくれるのが、やはり一番嬉しいそうです。

同窓生の皆さん、今度、学校の前を通ったときには、ちよつとタムラヤさんにも立ち寄ってみませんか！

(文責・斉藤研一)

大久保彦左衛門ゆかりの庭園のある八芳園で同期の集まりを開き、旧交をあたためていくことを報告します。同窓会が後輩諸氏によって隆盛に運営されていることを感謝しております。

## 郷愁

昭和三十八年卒 洲川隆太郎

「俺たち卒業して五〇年目だ。覚えて知ってた？」

「そうか、半世紀か……」「長い付き合いになったな、俺たちも。」「よく叱られたけど、何故か楽しかったな……あの頃は。」

この五月の下旬にクラスメートだった池澤寛君、尾見仁一君、境野典夫君と割烹で飲み交わしながらの会話でした。第一次オイルショックの頃に社会人となり、高度経済成長の最終局面で企業戦士の端くれとなって走り回り、バブルの崩壊と、その後の失われた二〇年の中を漂いながら気が付けば還暦を迎えていた、団塊の世代最後尾が我々でした。そんな四人で語り合った思い出の断片を綴ってみました。

お二人の担任のうち高田早穂見先生には、アコーデイオンで沢山の歌を教えて頂きました。伴憲三郎先生は白衣姿が印象的で、理科の面白さを教えて頂きました。感謝です。

二組の仲間はずら替えもなく、皆ずっと一緒に休み時

間は制服を泥まみれにして遊びました。女子の方がちょっと強かったドッジボール、どんぐり山でのかくれんぼ等でした。

一番の思い出はやはり何と云っても青山荘。月見草の咲き乱れる千倉の浜でのキャンプファイヤーや遠泳や野球大会。また蓼科高原での乗馬や釣りやハイキングは、その後の五〇年間我々の中に色褪せない記憶として残っています。他にも多摩川べりを歩き通したがんばり遠足、赤組と



向って左から、私(洲川)、境野君、池澤君、尾見君。

白組が得点を競い合った運動会、父兄も大勢見に来た学芸会もありました。思い出はほとんど出てきて尽きませんでした。

何年生の時に行ったか四人とも定かではありませんが、高尾山、ユネスコ村、長瀬、日本平へ行った遠足の思い出もありました。

「授業とかの思い出が全然

## 附小で学んだこと

昭和四十八年卒 沼田英子

『藤棚』に文章を書くことになったので、小学校の頃のことを思い出す手掛かりを探して机の引き出しを覗いたところ、中からガリ版用の鉄筆を発見しました。それは、確か四年生の時に池田茂男先生の指導のもとで取り組んだ、班の雑誌を作る活動で使ったものです。その頃はまだコピー機など存在せず、ガリ版印刷で作っていました。ヤスリ板の上にロウ原紙を広げて鉄筆でガリガリと文字を刻み、印刷機にインクを乗せ、ローラーで一枚ずつ紙に刷るのです。編集方針などもなく、作文や漫画、クイズなど、各自で素材を持ち寄って適当にページを作っていたので、

無いのは拙いんじゃないのか?」「そんなに勉強好きだったか?」「今度附小を見に行るか?」「校庭やどんぐり山や藤棚を見たら感動だな。」等と勝手なことを言いながら、ちよつと千鳥足で家路につきました。やっぱり附小は良かったな。

ごった煮のようなものになりました。けれども当時は、ガリ版を切って印刷すること自体が面白くて仕方なく、勉強する間を惜しんで雑誌作りに没頭していたのです。

高学年になって雑誌作りの活動がなくなると、私は「文芸クラブ」に所属して、小説を書くことに夢中になりました。文章を書くことで登場人物たちが動きだすのが面白く、家に帰るとひたすら原稿用紙を文字で埋めていきまし。翌日友だちに読んでもらい感想を聞くのが楽しみでした。勉強もせずに没頭したので、担任の亀岬嘉子先生に心配されたことを覚えています。結局二〇〇ページの支離

滅裂な長編になりました。他の部員の作品とともに製本して図書室の蔵書にしてみましたので、今でも書庫のどこかに眠っているのかもしれない。

それから大人になって、私は雑誌の編集者にも小説家にもならず、美術館の学芸員になりました。作品や作家について研究したり、美術品を収集したり、展覧会を企画する仕事です。どのようにしてその作品は誕生したのか、それはどのように人々に愛されてきたのかを調べることが面白く、また、素晴らしい作品を多くの人に紹介する展覧会の仕事も私を夢中にさせました。展示作業は肉体的にきつ、最初は何かとうまく行かずに苦労したこともありましたが、作家や所蔵家、エデュケーター、デザイナー、美術輸送や会場施工の専門家などさまざまな人と力を合わせて展覧会を作ることには本当にエキサイティングで、気がつく二十年以上が経っています。改めて振り返ってみると、いろいろなものに夢中になった附小での日々が、今の私を支えているのだと思います。

(横浜美術館学芸員)

# 同窓生の皆さん、はじめまして

今春、同窓会一年生になった平成二十五年卒の皆さんの声をお届けします。今回は、以下の三つの質問に回答してもらいました。

- ① 小学校の一番の思い出は何ですか？
- ② 小学校と中学校で一番違うと思うことは、どんなところですか？
- ③ 今、夢中になっていることや、とても楽しいと思っ

## ◆杉本龍暉さん

- ① 六年生の林間学校のオリエンテーションで、スギちゃんをやったことです。寒かったけれど、楽しかったです。
- ② 中学ではテストがいっぱいあって、評価がA・B・Cに分かれていることです。
- ③ 以前まであまり本を読んでいなかったけれど、本を読むことです。

## ◆入山紗香さん

- ① 六年生のときの音楽発表会です。曲数が五年生のときより多くて大変だったけれど、とても楽しかったです。また、六年生のときのクラスでやりたいです。
- ② 中学校では、授業のスピー

ドがとても速いことです。しかも発展的な内容で、とても大変です。

- ③ バトミントン部に入学して、日々練習しています。とても楽しくて、毎回練習が待ち切れません。

## ◆榎原壮太さん

- ① 四・五・六年生の時に、運動会で連続優勝したことです。とくに六年生の時は、最後の運動会だったので団結力が高まり、みんなが優勝を勝ち取りました。
- ② 中学では、木曜日に一〇〇分授業が四つあることです。でも今は慣れて、楽しく授業を受けています。
- ③ 新しい友達と話すことで

す。今は、それぞれの小学校の思い出を語り合っています。

## ◆八坂由衣さん

- ① 六年生で代表委員をしたことが、私の一番の思い出です。みんなの広場の司会や運動会実行委員など、仕事は大変でしたが、とてもやりがいがありました。
- ② 中学校では、小学校よりも先輩、後輩の関係がはっきりしているところです。
- ③ 今一番楽しいのは、ブラスバンド部でパーカッションをすること、家で習っているフルートを吹くことです。二つの楽器の両立は大変ですが、とても楽しいです。

## ◆藤本啓太さん

- ① 六年生の運動会で、応援団長をしたことです。皆の前で王冠をかぶることができたことが嬉しかったです。
- ② 中学になると、木曜日が八時間授業になることです。技術や美術など楽しい教科を二コマ分できますが、とても疲れます。
- ③ テニス・サークルに入っ

て、毎日練習しています。早く上達して、大会に出ることができるようになりたいです。

## ◆村上茉由さん

- ① 林間学校のキャンプ・ファイヤーです。花火を見たときのことを、今でもはっきり思い出します。また、あんなふうに集まりたいです。
- ② 中学には制服があることです。前は慣れなかったのですが、最近はかなり居心地が良くなっています。
- ③ 文芸部での書くことに夢中です。書いていると、時間を忘れてしまうことがあります。



## ◆本年度の同窓会役員

- 会長 平井 聖(昭和一七年)
- 幹事長 森 昭彦(〃三〇年)
- 会計監事 吉原重和(〃三五年)
- 松本洋典(平成 八年)
- 清水嘉男(昭和二〇年)
- 福西武子(〃二〇年)
- 小野聖穂(〃二九年)
- 古川 一郎(〃三一年)
- 幣原 廣(〃三七年)
- 木下智子(〃四〇年)
- 長岡寿昭(〃四一年)
- 浅尾博之(〃四五年)
- 福本彩子(〃四七年)
- 岡市典子(〃五三年)
- 齊藤研一(〃五四年)
- 野口尚志(〃六三年)
- 津久井可南子(平成八年)

### 《名簿の訂正》

名簿発行後に誤りが判明いたしましたのでお詫びして訂正いたします。

1943年(昭和18年)2組 宇佐美民雄 様  
 逝去欄から削除し名簿欄に追加  
 宇佐美民雄(小島)  
 〒456-0033 名古屋市熱田区花表町8-12  
 神宮東コーポラス 303号  
 052-872-6778

## 平成24年度(平成24年4月1日～平成25年3月31日)青山附属同窓会 会計報告

### 1. 同窓会基金(単位:円)

収入	金額	支出	金額	残高
前年度より繰り越し	3,299,614			
銀行利息 三菱UFJ信託銀行定期預金	1,043			
三菱UFJ信託銀行普通預金	9			
合計	3,300,666		0	3,300,666

### 2. 経常会計(単位:円)

収入	金額	支出	金額
前年度より繰り越し	15,695,648	H24藤棚印刷費	363,300
		H23藤棚印刷費	193,320 *
会費(郵貯銀行振替口座) 253名	1,265,000	H24名簿印刷費	1,793,080
会費(現金分) 1名	5,000	H23名簿印刷費	21,600 *
会費(新卒入会金) 115名	1,150,000	回線使用料	67,302
		データ管理費	137,340
		事務手数料	191,950
		H24藤棚発送費	10,400
銀行利息 三井住友銀行定期預金	606	H23藤棚発送費	491,073 *
三井住友銀行普通預金	671	H24名簿発送費	1,126,640
ゆうちょ銀行総合口座	1,210	H23名簿発送費	0
		H24通信費	8,558
平成24年度収入合計	2,422,487	H23通信費	107,750 *
		事務用品費	3,184
		慶弔費	20,000
		交際費	6,805
		会議費	5,190
		交通費	300
		振込手数料	37,030
		本年度支出計	4,584,822
		次年度へ繰越	13,533,313
合計	18,118,135	合計	18,118,135

### 3. 資産の部(単位:円)

明細	金額
同窓会基金分	
三菱UFJ信託銀行定期預金	3,250,000
三菱UFJ信託銀行普通預金	50,666
合計	3,300,666
経常会計分	
三井住友銀行通知預金	1,500,000
三井住友銀行定期預金	3,020,811
三井住友銀行普通預金	4,484,556
ゆうちょ銀行総合口座	176,783
ゆうちょ銀行振替口座	4,205,145
ゆうちょ銀行振替口座(懇親会)	23,314
現金	122,704
合計	13,533,313
基金+経常会計合計	
	16,833,979

#### 備考

前年度(H23)マイナス現金繰越金(¥-789)に関し、今年度(H24)で事務手数料に含む。

支払手数料には、郵貯振替手数料¥34,505を含む。

\*表示金額はH23年度未払い金

◆幹事会での会計報告にゆうちょ銀行総合口座に関し、預金残高に金額変更が確認された為、銀行利息として、収入に+374円の修正を反映させております。

会計:岡市 典子、瓶子 可南子 監事:吉原 重和、松本 洋典

監査報告:帳簿類、会計報告書を監査の結果、適性であることを認めます。 監事:吉原 重和 印 松本 洋典 印

#### \* 23年度未払い金内訳

請求項目	支出項目	内訳金額
調査票印刷(返信葉書印刷を含む)	H23名簿印刷	193,320
懇親会チラシ印刷	H23藤棚印刷	21,600
藤棚・調査票・チラシ郵送料	H23藤棚発送	491,073
下馬校舎案内葉書印刷	H23通信費	7,160
下馬校舎案内葉書郵送料	H23通信費	100,590
未払い金合計		813,743

## 編集後記

◇思い出がいっぱい詰まった千倉の青山荘。松くい虫の被害も甚大で、現在、周囲の松はすべて伐採され、青山荘の庭と海岸が一続きの状態だそうです。今後どうなってしまうのか、最善の決定がなされることを祈るばかりです。

◇タムラヤさんの特集記事、いかがだったでしょうか。紙面の都合上、文章にできなかったお話もたくさんしていただきました。五島さん(！)、ありがとうございます。

◇下馬校舎近くの世田谷観音は、定期的に朝市が開催される地元の人気スポット。思い出に浸りつつ、散策にいかがですか。北園さん、ご寄稿ありがとうございます。

◇卒業五〇周年を迎えた学年の洲川さんと、卒業四〇周年を迎えた沼田さんにも寄稿していただきました。お忙しい中、ありがとうございます。

◇クラス会の開催報告など、『藤棚』に文章をお寄せ下さい。大募集です。

(編集者・斉藤)